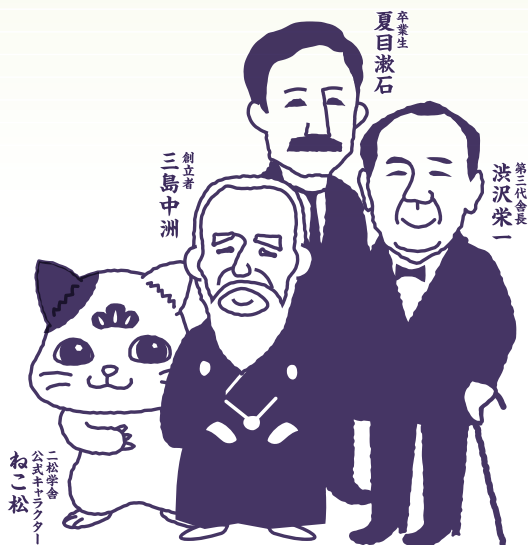




# 二松學舎 松苓会報

## CONTENTS

- P2 祝・二松學舎145周年記念  
三島中洲は、なぜ番町の地に漢学塾を開いたのか
- P4 松苓会支部長だより①一沖縄・九州支部特集一
- P8 松苓会支部情報
- P9 卒業生だより
- P10 卒業生の出版図書
- P11 吾輩、推し言葉①「渋沢栄一の書」
- P12 学生会員だより 九段祭「POP2022」を終えて
- P13 サークル紹介（狂言研究会・競技かるたサークル舞札）
- P14 令和4年度「第27回松苓会定期総会」開催報告
- P16 附属高校野球部「3季連続の甲子園出場」／訃報／編集後記



No.68 2022年10月10日  
二松學舎大学同窓会広報誌

145<sup>th</sup>  
anniversary  
since1877

## 祝・二松學舎145周年記念

三島中洲は、なぜ番町の地に漢学塾を開いたのか 片山聖英 (50文)



中洲米寿の筆跡  
二松學舎大学所蔵  
九段1号館  
13階に展示

1868年9月、明治元年に改まる。その暮れ、板倉勝静・勝全父子が榎本武揚らとともに箱館に立て籠っていた。

勝静は奥羽越列藩同盟の顧問であったために同行したのであったが、江戸幕府最後の老中筆頭勝静（大政奉還図の左側の奥の人物）は新政府軍に対して賊軍の将という立場



大政奉還図：左側の上・板倉勝静

となるため、切腹・お家断絶が必定。絶体絶命の運命の中にあつた。それを救ったのが山田方谷であつた。

幕府にとって有能な人物は新政府にとつても同様に有能な人物となるということを理解させたのであつた。

しかし、これは人というものの心の在り様を理解していた方谷だからできた歴史に残すべき説得である。

板倉家存続のために勝静父子を箱館から脱出。そして翌明治2年4月、明治政府に自首させるのであつた。

8月には父子2人は終身禁固に、そして勝静の血を引く勝弼に相続の裁定が下され、10月には松山藩は2万石に減封されるとともに初期藩名の高梁藩と改名させられている。

こうして藩知事に勝弼がなり、旧藩の者たちは勝弼の下で役人となり支えるのだ。

明治4（1871）年3月、

勝静・勝全父子は禁固を解かれて江戸の私邸に戻ってくる。

同様に死を免れた榎本武揚は新政府に仕え尽力することを誓うが、勝静は精神的に疲れたようで、表舞台に出ることとはなくなっていく。

文京区の吉祥寺には板倉勝静と板倉家の墓があり、榎本武揚の墓もある。現在、板倉家の19代の当主は川崎に住んでいる。

山田方谷は新政府の岩倉具視や木戸孝允、大久保利通からも出仕の要請を得ているが、一切応じていない。やはり主君勝静の動きに従ったようである。

このとき三島中洲は勝弼の家令を務めながら、中洲が30代の頃に藩主から下賜された二百坪の宅地に自宅兼塾、虎口溪舎を開いて漢学と洋学の兼修を通して人材育成を担うことに従事していた。

すでに中洲に教育者としての姿が見られるのであつた。

司法卿の江藤新平は廃藩置県が行われた明治4（1871）年12月に法務省を米沢藩邸に、東京裁判所を松山藩邸と大岡越前邸に設置。

明治5年、60代の山田方谷は、40代の中洲の力を最も理解していたので、司法省への出仕を勧めている。

中洲は同年11月に東京裁判所勤務を命じられている。

新しい時代となり、新政府に膨大な訴訟が持ち込まれていたが、中洲は真摯にすべてに対応している。漢学で培った素養が人間認識と判断を下すことに役立つたのである。

このとき中洲は麴町番町の地を自宅としている。麴町の名は、もともと江戸城の西の台地を「国府路」と呼んだと



吉祥寺（文京区）にある板倉家の墓

ころから来ているのだが、甲州街道に向かう軍事上の要地であったということ、そこに警護のための約2千人の旗本屋敷が配置され、主君警護のための番方が住んでいた所なのである。

幕府の忠臣の老中筆頭であった板倉勝静の汚名を雪ぐことを願い、新政府の天皇に忠誠を示すための一等地であったこの地を選んだのである。

主君の汚名を雪ぐという忠義の心は、一橋家に仕えた淡澤栄一の中にも強く、自分がパリに派遣されている間に慶喜が大政奉還を断行したことからくる汚名を雪ぎたいと願っていた。そのために栄一は25回、慶喜に会って当時のこ

とを語ってもらっている。

それが『昔夢会筆記 回顧録』となつて明治40（1907）年7月にまとめられているが、そうした主君の想いを晴らしたいという願いは強くあったのだらうと考えられるのである。

さて旧松山藩邸であるが、松山藩や米沢藩邸は法務省などの中央省庁になり、番町は次第に空き家が激増している。そこに新政府の官員が住むようになり、官吏の町となつていくのであった。

中洲が裁判の判事を務めた頃、現在のようない判例集などが整つていた訳ではない。中洲は裁判に取り組みながら、訴訟の記録を残していく。これもすべて後進のための記録であった。

つまり中洲は教育者であつた。人を育てることに没頭してしまふところがあつたのであろう。

それは中洲が東京師範学校教授となつたことでも理解されよう。

そして、明治10（1877）

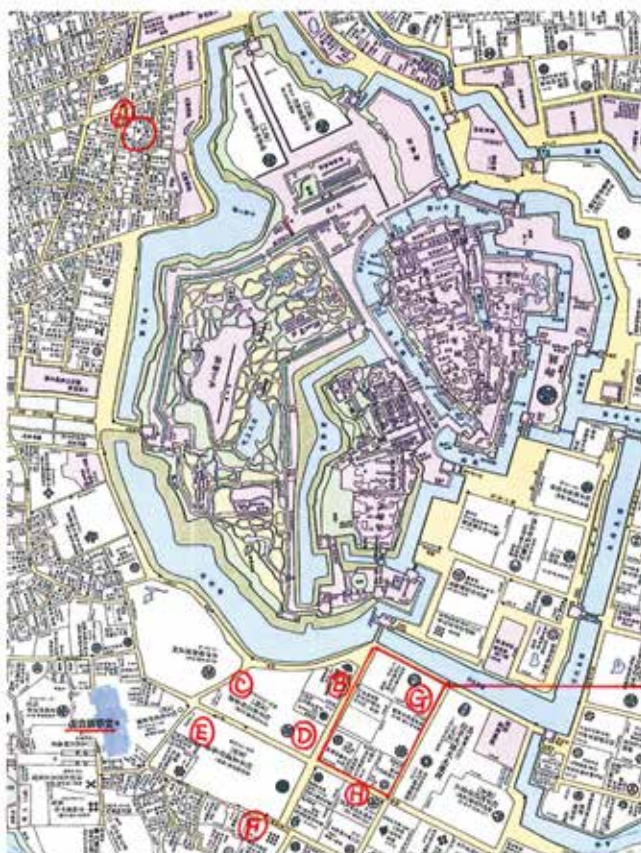
年6月、師山田方谷が亡くなると同時に、中洲は大審院判事を辞任。新政府のために6年間、法曹会にあつて貢献したのであつた。

そして、その年の10月10日に「漢学塾二松學舎」を自宅敷地に創立するのであつた。

それは校歌にも示されたように、新政府の「大皇居」の側に二松學舎を創設することを通して、新しい時代の若者たちに「平和の御国」設立のための日本人の精神の核となる学問の場を築き上げたいと

考えたのである。漢学塾というが漢学だけに限定していた訳ではなさそうである。漢学も洋学も、よいところを認めて自己の修養のための糧としてようとしたのである。

二松學舎の精神は、よいところを見つけて認め合つていくことの中で、深く成熟しようというものであつた。



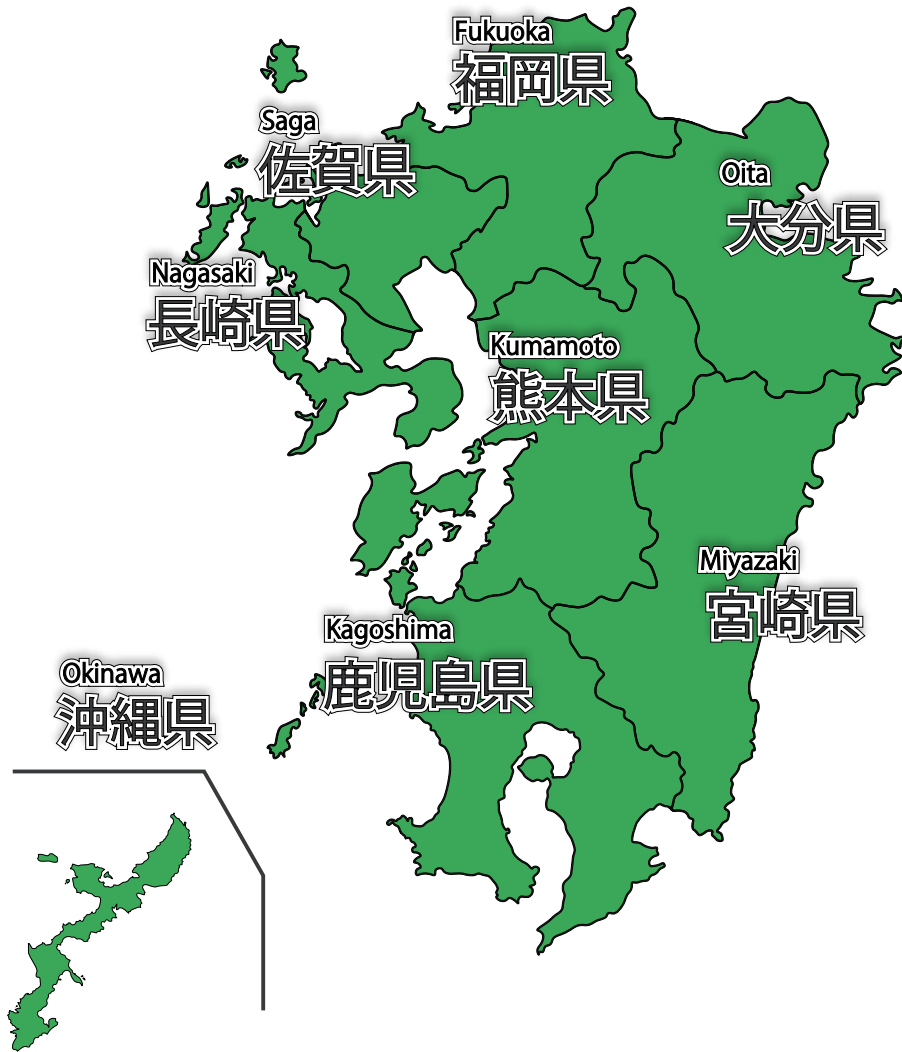
〈安政三年千代田復元図より〉  
 A：三島中洲邸・漢学塾二松學舎  
 B：警視庁 C：国土交通省 D：総務省 E：外務省  
 F：財務省 G：法務省・東京高等裁判所 H：農水省

Gの区画の拡大  
 中央が備中松山藩邸  
 北側が米沢藩邸  
 南側が大岡越前邸

# 新連載 松苓会支部長だより ①

## — 沖縄・九州支部特集 —

松苓会は47都道府県に各支部があり、各々の活動をしています。今号から6回にわたり支部長各氏からの寄稿を掲載します。諸国漫遊ご堪能ください。



### 福岡県支部

来し方片々

支部長 永淵道彦 (36文)



新型コロナウイルスの猛威も3年目に突入の今日この頃である。

この猛威がなければ既に、県支部長も次世代の後輩へ引き継いでいたであろう。暗いバトンタッチがイヤで今日に至っている。

松苓会本部から先日、各支部長へ紹介の一文を寄稿せよとの達しがあり困惑した。落ち着かないコロナ禍を利し、書斎整理の最中で支部資料等の行方が不明であった。掲げるのは「二松學舎松苓会福岡県支部総会・出席者一覧」。探し出し、やっと手にした懐かしい資料である。

日時 平成7年8月25日  
会場 「八仙閣業館」  
来賓 雨海博洋学長・百瀬寛海学務副部長・瀬尾勝義学生係長  
出席者 古賀茂行(3専) 河野 卓(12専) 本田 進(14専) 隈本 宏(15専) 西田潤一郎(16専)\* 正生貞樹(16専) 山田卯典(16専) 西岡照二(17専)

山口嘉幸(25文) 仙田美智子(31文) 永淵道彦(36文)\* 正生英彦(48文) 沖永滋樹(57文) 桐 隆一(57文)

県支部長は福岡県教育委員会の要職や明善高校長歴任の山田卯典先生で、お声をかけて頂き小生は支部事務局長の任にあった。その縁で小生、平成13年夏から支部長を務めているしだい。

揚げた資料の当時は、母方の早稲田卒業の叔父など、歴史ある国漢の学校として一目置いてくれたが、母校二松は本当に知名度が低かった。

二松の附属高校野球部が、この夏も甲子園大会に常連校として活躍し、学校の知名度を上げてくれている。他の分野の我々も、老骨に鞭打ち、負けずに奮発したいものだ。

県支部長は新型コロナ終息を目安に、先年に黒崎播磨(株)を部長で定年退職し、控えている正生英彦君にお願いする予定である。揚げた資料の出席者名で判ぜられるように親子二代続けての卒業生である。

(筑紫女学園大学名誉教授 二松學舎松苓会幹事)

**佐賀県支部**

**学生時代の思い出**

支部長 白濱富士夫 (54文)



私は、昭和57年に二松學舎に入学し、その前月の春

の選抜高校野球大会で附属高校野球部が、準優勝の快挙を果たしました。附属の野球部は、千葉の沼南校舎のグラウンドで練習を行っており、柏駅から沼南校舎まで大学のスクールバスを利用。そのバスの中でキャプテンが、「空いている席は1年生に座らせる。」と、2・3年生に指示をしたのです。高校に入学し、まだ部活生活に慣れない1年生への配慮だったと思います。私は、このキャプテンの言葉が、とても鮮烈な印象として、今も忘れることができませぬ。上級生優位ではなく、下級生を気遣い思いやるキャプテンの言葉に感銘しました。二松學舎卒業の同郷の先輩が、都立高校退職後、附属高校の講師として授業をさ

れていた時に、附属の野球部の生徒が居眠り。すると同じ野球部の生徒が、「寝るな。頑張って授業を聞け。」と檄を飛ばしたという話を聞ききました。大リーグで活躍する鈴木誠也選手をはじめ、多くのプロ野球選手を輩出した二松學舎野球部の強さは、下級生を大事にし、部員同士で励まし合って頑張るところにも表れていると思います。私は大学卒業後、夏の甲子園予選の東京大会での附属高校野球部の結果を、毎年新聞で確認し、一喜一憂しています。今年の夏は、二年連続で甲子園出場。これからも附属高校野球部の更なる活躍を期待しています。

**大分県支部**

**学生時代の思い出**

支部長 甲斐啓一郎 (52文)



大学卒業は昭和59(1984)年3月で36年も前のことであり、細かいことは忘却の彼

方である。

1年次から所属していた「シネマサークル画夢」のことを書くという考えもあったが、新歓コンパでの神楽坂泥酔事件は大学の名折れになることを危惧し、断念。何を書いたらよいか考えあぐね、実家を探したところ卒業アルバムを発見。卒業アルバムがあったのだと懐かしくページをめくってみた。

巻末には教員と卒業生の住所が掲載。しかも卒業生のは学籍番号順ではなく所属ゼミごとに載っている。ゼミでの活動に重きが置かれていた証拠である。

アルバムには各ゼミの記念写真も掲載されている。私が所属した菅根順之ゼミは日光東照宮で撮影したものだ。どうやらゼミ合宿でのスナップの一枚らしい。実家からは手書きの行程表も見つかった。私がゼミ長としてゼミ合宿の計画立案、切符の手配や旅館の予約など、したらしい。よく覚えていないけど。期日は4月6日(水)〜8日(金)

**長崎県支部**

**二松と言えば、「バイト」と「語文研」だった。そして今!**

支部長 黒瀬孝志郎 (38文)



千葉大英文科を不合格になった私は二松學舎で「中

国語」を学ぶ目的で入学。貧

の2泊3日、奥日光湯元温泉の釜屋旅館に泊まっている。ネットで調べたところ釜屋旅館は現在では「湯守釜屋」として老舗の湯宿として営業中である。行程表では1日目の午後8時から10時まで2時間と2日目の午後3時〜5時までの2時間、計4時間を勉強Timeとしている。何を勉強したのか覚えていない。午後5時からコンパという宴会が行われたようである。他のゼミ合宿がどのようなものであったか分からないが、こんなゼミ合宿の日程を許してくださった菅根先生の度量の大きさに感謝するしかないということなのだ。

乏人の子供はバイトをしながら生計を立てることに腐心、格闘。そんな中一番長かったのが賄い付きの飲食業界。葛飾金町から千代田区富士見に引っ越すと、飯田橋近くの「キッチンカロリー」に飛び込みホールのバイトを始め、慣れると料理のイロハも教えて貰った。そして年数を重ねると他の業務も任せられ、学生としては異例の副店長に登用され、飲食業にどっぷりと浸かってしまった。

トヨタ5年の社会人と二松の聴講生を経て教育職―

長崎日大の教員時には異業種交流会の「長崎ロマン倶楽部」を12年間主宰、その後も「大人の夜楽会」を2年間主宰。

長崎日大を54歳で早期退職すると家内に任せていた「みのる塾」の経営を始めた。低迷した時期には居酒屋「ゑびす」の経営も経験した。

コロナ禍を予測したのではないが、自宅敷地内にウッドデッキを作り、2021年2

月から「Kochan Wood Deck Cafe」という月一の会員制飲み会を始めて料理を再開する。

塾を経営する以上に重視しているのは健康維持目的でやっている「年中無休のウオーキング」や「筋トレ」などである。百歳まで現役経営者を続けるのが目標だからである。

## 熊本県支部

### 「漢詩と陽明学」

支部長 塩水英文（52文）



私は昭和55年度に中国文学科に入學し、卒業後は熊本県内の公立中学校に勤務しました。

在学中は赤塚忠先生をはじめとして著名な先生方の教えを受けることができました。大学から神田まで歩いていけるので、三省堂、富山房、東京堂などにもよく行きました。その頃買った本は今でも時折り読み返しています。お

もしろそうな本はジャンルを問わずあれこれ読んでいますが、思わぬところで「二松學舎」について書かれた本に出会うことがあります。

例えば、「近代日本の陽明学」（小島毅 講談社選書メチエ）には、「二松學舎は、中洲の信条に基づき、陽明学による教育を標榜した」とあり、本学と陽明学とのつながりが詳述されています。さらに中洲先師が東宮侍講に就任したことが、大正天皇に陽明学を講じたことが述べられています。

大正天皇が中洲先師から漢詩の教えを受けたことは、「大正天皇」（原武史 朝日選書）や「崩御と即位―天皇の家族史―」（保阪正康 新潮文庫）にも書かれています。これら他にも本学について書かれた本はまだまだあることと思います。

まとまりのない文章となりましたが、本学の発展をお祈りしまして結びとさせていただきます。

## 宮崎県支部

### 今後の大きな課題

支部長 内村厚夫（44文）



支部長を仰せつかって4年目を迎えました。この間コロナの影響で活動自体ができず、名前ばかりの支部長となっており、会員の皆様には大変申し訳なく思っています。

一日も早くコロナが収束し大学にも足を運び最新の情報を会員の皆さんに提供できる日が来ることを切に願っています。

新たな松茶会報と言うことで学生時代の思い出等についての原稿依頼を受けましたが、卒業して46年が過ぎました。卒業と同時に大学にも足を運ぶ機会もなくなり遠い昔のこととなり記憶から遠ざかりつつあります。

今と違って私たちの時代の学部は国文学科と中国文学科の二学科だけでした。歴史ある大学で、しかも錚々たる教

授陣のもとで学べたことは、大きな財産となりました。勉強はそこそこでしたがどうか卒業でき教職に就くことが出来ました。校舎は五階建ての一棟だけでした。中庭を隔てて古い講堂がありました。その講堂の脇で弓道同好会の一員として巻藁打ちに精を出していた毎日だったような気がします。

昨今の大学在学者の割合が首都圏8割、地方2割という実態だと聞きました。当時の私たちもそうでした。今年度の宮崎県からの入学者も2名と少ない現状に寂しさを覚えたところでは。今後会員の減少による支部活動の在り方、存続が今後の大きな課題としての宮崎県です。

## 鹿児島県支部

### 学生時代の思い出

支部長 岡元正昭 (31文)



高校3年の時の担任が二松をすすめてくれた。迷い

なく上京出来る喜びを持ったのを覚えている。昭和34年に入学、校舎は木造で校庭もない今の大学とは雲泥の差であった。同級生も40名足らず年齢もいろいろ。でも驚いたことに大学の講義が始まると高校の時とは違い当事の有名な先生方から専門的に高度な教えを受けた。山岸先生、関先生、加藤先生、石橋先生、金子先生などが強く記憶に残っている。単位は3年次終了までに全てとり終るくらい真面目に授業は受けた。登校して休講の文字を見た時は嬉しかった。そんな時は靖国神社のベンチに寝ころがったり、神田の書店を散策した。山梨の植松君と気が合う友人が出来たことも大きな収穫だった。反面悲しいこともある。同級の乾一夫君が若くして他界され残念だった。彼はノートもしっかりとりテスト前によく拝借していたのは自分だけではなかった。

二松學舎の卒業生として中学校に18年間、高校に20年間勤務出来たことは自分の誇り

とすることであった。当時の同学年の人達はどうしているかなあと、旧友を思い出す日もある。81歳を過ぎてクリニック通いも多忙ながら書の道を歩いてこられたことも石橋先生、金子先生、鈴木先生のおかげだと感謝の気持ちでいっぱいである。

## 沖縄県支部

### さらに絆を深めたい

支部長 金城健一 (38文)



私は昭和20年の生れだが、都内某私大を中退して

二松學舎に入学したので、同年生よりは2年遅れて、昭和45年、第38期で卒業したことになる。卒業から52年を経たのだが、半世紀後の今も二松學舎で得た友人達との「友情」は私の宝である。中でも入学後一番最初に得た友人は北海道出身のK君だった。彼の東中野のアパートと、私の習志野在の県の学生寮を歩き来した。

いつからか、2人に加わり、11名の仲間が集うようになった。青森、秋田、岩手、埼玉、高知等々である。11名でK君の冠をかぶして「Kゼミ」と称した。卒業後はそれぞれに住み家は違ったが、K君の統率力とA夫婦の協力で、毎年6月の「Kゼミ全国行脚」の旅は52年後の今も続いている。

難関の東京を勝ち抜き甲子園の常連校に成った附属の応援を「いの一歩」に決め、順次11名の出身県の応援が楽しみの慣例になっている。夏目漱石のアンドロイドが母校に甦った喜びを伝えて来たのも、母校に勤務するゼミの仲間だった。

七十の前半を越した今、11名の仲間からリーダーのKが26年前に、Y子さんが2年前に、高知新聞で健筆を振るつたH君が鬼籍に入ったことは痛恨の極みである。コロナ禍の厳しい中、健康作りに勤めて、全国の「松苓会」の仲間との絆を深めたいと思う今日この頃である。

## 松苓会支部情報

### 岩手県支部

#### 支部総会・懇親会開催

支部長 宮本義孝（32文）

令和4年度岩手県支部の総会と懇親会は、7月17日（日）午前11時から午後3時まで、盛岡市志家町の「サンセール盛岡」で開催されました。出席者は7名でした。

総会を実施するにあたり、案内を出した時点ではさほどでもなかったのですが、7月に入って新型コロナウイルスの感染者が急増し、開催日が近づくにつれ、連日、過去最高を越えるようになりました。

しかし、総会は、ここ2年、開いていません。中止しても、来年必ずやれるという保証はありません。お互い、話したいこと、聞きたいこともあるだろうと、最終的には、感染回避に気配りをして、予定通り行うことにしました。

総会では、支部活動と収支決算報告の他、今後の活動や次期支部長のことなどについて

て話し合いました。

本県から母校に入学する高卒者の数は、十数年来、激減しています。また本県には、自分を十分生かせる仕事も少なく、卒業してもなかなか戻ってきません。今、支部を支えてくれている会員は、ほとんどが、七、八十代です。将来的にむずかしい問題を抱えていると思います。

また、支部長についても、協力的な会員は、私と同様、高齢者であって、適当な人材が見つかりません。

私は間もなく、日本の男性の、平均寿命の年齢に達します。どこまでやれるか、分かりませんが、取り敢えず、これまで通り、宮本がつづけることになりました。

総会後の懇親会では、2年振り、ということもあり、また、国内外共、大事件が起こっていて、話題には事欠きません。懇親会に取った三時間は、話が途切れることなく、大いに盛り上がりました。

（参加者）（敬称略）

小笠原克夫（34文）伊藤慶子（38文）

目黒 泰（38文） 川村敏明（40文）

高橋良光（41文） 高橋廣至（46文）

宮本義孝（32文）

#### ◆支部報発行

○第98号 令和3年7月1日発行

・コロナ禍と教育・また

○特別号 令和3年7月18日発行

・支部会員からの近況報告

○第99号 令和3年11月9日発行

・北山散策路と立原道造

○第100号 令和4年1月15日発行

・樹に会う

○第101号 令和4年3月7日発行

・東日本大震災に学ぶ

○第102号 令和4年4月8日発行

・近藤慎一君を送る

### 千葉県支部

#### 3年ぶりの支部総会・講演会開催

支部長 河野千津子（49文）

令和4年8月6日（土）千葉市美術館11階講堂を会場に、収束の見通せぬコロナ禍ではありましたが、可能な限りの感染予防対策を講じて3年ぶりに対面での支部総会と講演会を開催いたしました。

総会には、松苓会廣田克己

会長、東京都支部片山聖英幹事長の御臨席を賜り、支部長挨拶、来賓挨拶、令和3年度活動報告、決算報告、監査報告、令和4年度活動計画案、予算案等と議事は進行し、原案どおり承認され無事終了しました。

総会後の記念講演は、敬愛大学教育学部教授の畑中千晶先生を講師にお招きし、「心躍らせて読む古典『男色大鑑』の世界」と題し御講演をいただきました。日本の古典における男色の世界、二次創作、「萌え」の共振、BL（ボーイズ・ラブ）解釈からLGBT事情まで、時代や国の中で変化していく恋愛・性愛の多様性等、現代の若い人達の心的な世界も考え合わせていること

など、とても興味深く面白かったです。参加者の中に



千葉県支部総会集合写真  
（前列中央が畑中千晶先生）



は二松學舎大学の学生もおり、講演後も畑中先生から教えをいただき大満足の様子でした。

会場を後にした3年ぶりの同志の喜びは尽きることなく、千葉駅ビルの中の一角を借り切り、短い時間ではありましたが、お互いの近況報告、情報交換、次回再会の約束等大いに盛り上がりしました。

現況を見定め、一歩でも前へ！という会員の皆様の力で開催できましたことを心よりうれしく感謝申し上げます。

## 神奈川県支部

### 支部総会開催

支部長 平野光治（40文）

令和4年8月20日（土）13時20分より、かながわ県民センターにて、第43回二松學舎松茶会神奈川県支部定期総会が開催されました。新型コロナウイルス感染者が増加している状況でしたので、役員会の決定で少人数、短時間、講演なし、

他支部への案内なし、との方針で開催いたしました。

2年間支部事業が「監査と支部報発行」のみとなっておりましたので、募る不安を抱えての中での開催となりました。

支部報にての承認でした「令和元年事業報告・会計報告」「令和2年度事業報告・会計報告」「令和3年度事業報告・会計報告」を含め「令和3年度事業報告・会計報告・会計監査報告」「令和4年度事業計画案・予算案」「諸事業の見直し」「役員改正」の全ての議案が承認されました。

また、議案の「その他」では、事業実施に関することや会員の事業参加、運営協力への積極的な依頼、本部の新たな取り組み等について貴重なご意見・情報をいただきました。

出欠返信用はがきを同封しませんが、多くの会員の皆さまから、ご連絡や総会の無事開催、成功への励ましのお言葉をいただきました。支部への関心をお持ちいただいていることに感謝の思いを強く

いたしました。

2年間のブランクの大きさを実感いたしました。今後の支部活動を考えるうえで総会を開催してよかったと思っております。

〔参加者〕（敬称略）

- 神奈川県支部会員
- 網野将美（64文）・伊藤文雄（45文）
- 小林孝彰（38文）・佐藤 馨（5政修）
- 原田佐知子 ・平野光治（40文）
- 廣田克己（38文）・福島 猛（44文）
- 前田 明（48文）・松丸由文（31文）

## 卒業生だより

### 出合いの場を

積田辰也（43文）



人には、歴史があります。人生に光を当てる人との出

会いもあります。貴方には？二松學舎大学では、古典を通じて日本人の歴史と心を学ぶきっかけを得ました。

卒業後、中学校の教師に。世の中に、広い世界と狭い世界があることを体験しまし

た。私は、広い世界に飛込み、学び、生涯学びと実践の世界に生きようと思いました。

そして不動産業界に。教育界では経験出来なかった、広く深い世界がありました。日本、世界で活躍する企業、多くの人達に出会いました。成長出来たことに感謝です。

本年9月、古稀を迎えます。私の新しい歴史創りが始まる時です。年齢の枠を超えた世代間交流。子どもも大人も教師となる世界。

『人類の良心』をテーマにした教育団体を設立しました。一般社団法人「啐啄同時」。千葉県に本拠地を置き、活動を開始しました。子ども、大人の枠を超えた人間教育。教育の場と機会を創り続けることが、私の歴史創りであり、使命です。人生に光を当てる人達との出合いの場を、創り続けたいのです。

文学、言語、表現等、様々な世界を対象に活動を始めています。私は、二松學舎大学同窓生と共に、歴史の一ページを創りたい。

## モンゴルとの架け橋に

神 恵介(74文)



少し頭を傾げて中に入ると、獣皮のにおいに満ちて

いた。今、ぼくはモンゴルゲルの中でこの松苔会への寄稿文を書いているのだが、モンゴルへは観光ではなく、日本留学希望者のリクルーティングのために訪れたのである。ぼくの仕事は、日本語学校の日本語教師。皆さんは、日本語教師という仕事をご存じだろうか。国語教師ではない。日本語教師である。日本に留学し大学進学や就職をしたいという外国人を募集し、日本で生きていけるように異文化受容も促しながら、1年〜2年間日本語を教えて、次のステップに進めるように支援する、というのが主な日本語学校及び日本語教師の役割なのである。現在、ぼくはその日本語学校で校長兼教務主任として、学生募集から留学生が日本でしっかりとキャリアアップできるように教育環

境全般の整備までを主な職務としておこなっている。

また、それ以外にも文化庁委託事業として、全国の日本語学校の主任教員に対する研修の実施委員を行ったり、民間の外国人向けの新試験の開発委員会委員をしていたり、AIを活用した新しい日本語学習コンテンツの開発をお手伝いしていたりと様々な方面から、日本語教育を盛り上げるような活動をしている。

## 仲間を支えに

工藤大樹(78政)



今回、誠に僭越ながら私の現在、そして学生時代の

振り返りをさせていただきます。

私はこの2月に転職し、新宿区内の商社で営業として日々職務に従事しております。前職は埼玉県八潮市のパッケージメーカーに約9年勤めておりました。職種としては前職から引き続き営業なので大きく変わらないのですが、メーカーから商社と畑が

変わったので、戸惑うことが多いです。前職で大手印刷会社を担当していたこともあり、入社後すぐに大手出版社の担当となり、充実した日々を過ごしております。

私の学生時代ですが、お世辞にも真面目な学生とは言えない学生でした。今でも学生時代は後悔してしまうことが多いです。軟式野球部の仲間、基礎ゼミの仲間とすぐ打ち解けられたので入学早々友人関係は広く、遊ぶことに関して是不自由のない日々を過ごしていました。将来設計が全くとできておらず、やりたい仕事も考えられず、甘い考えのまま就職活動を始めてしまったことが一番の後悔です。

甘い考えに追い打ちをかけるようにリーマンショックもあり就職活動は難航して(当たり前ですね)実際就職が決まったのが卒業の約1年後でした。過ぎてしまったことは考えても仕方ないですね。

現在は短期的、長期的に将来を見据えた行動をするよう心がけてから仕事が順調に進

むようになりました。後悔のあった学生生活でしたが、それを糧に現在日々精進しております。学生時代の友人関係は未だに続いていますし、二松生で良かったと思っております。

以上となります。このようなお時世ですので、皆さまご自愛下さい。

## 卒業生の出版図書

田中幸江さん(63文) 訳注

『絵巻で読む方丈記』鴨長明著  
東京美術2530円(税込)  
2022年6月刊



江戸時代に描かれた『方丈記』は、鴨長

明の随筆『方丈記』の唯一の絵巻である。火災や地震など、コロナの流行や相次ぐ自然災害に見舞われる現代とも重なる当時の様子が見事に描かれており、浮かび上がり、災厄を前にして人はいかに生きるべきかを問う。絵巻の全17図をカラーで紹介するとともに、本文と現代語訳、解説が付されている。



二松學舎大学附属高等学校図書室に展示

新連載

# 吾輩、推し言葉

1

## 渋沢栄一 (天保11年～昭和6年)

草書「莫待」扁額

〈釈文〉

莫待無花空折枝

(花無きを待ちて空しく枝を折る莫れ)

乙卯四月 青淵書 (乙卯四月 青淵書す)

### 説明

吾輩は、家永修と申します。年少より、書道に親しんで参りました。そこで今回から、本学が所有する宝物(推し言葉)を幾つか紹介して参ります。

今回の記念すべき一回目で推すのは、渋沢栄一の書です。「乙卯四月」とありますが、栄一は76歳で、大正4(1915)年に当っています。

とても真面目で成熟した字ですが、76歳にしては何とも艶のある字なのです。

この句は、唐代の女流詩人、杜秋娘の「金縷の衣」という七言絶句の結句なのです。

その詩を示します。

勸君莫惜金縷衣 (君に勸む惜しむ莫れ金縷の衣)

勸君惜取少年時 (君に勸む惜しみ取れ少年の時)

花開堪折直須折 (花開いて折るに堪へば直に須らく折るべし)

莫待無花空折枝 (花無きを待ちて空しく枝を折る莫れ)

通釈は、「金縷の衣は貴いものですが、惜しむには足りないのです。一度、去つてはまた還らない少年時代こそ、むしろ惜しむべきものであることを君に勧めたいのです。花が咲いて手折れるようになったら、早速折り取るのがよいのです。ぐずぐずして、花が散つてしまつてから、枝だけを折るようなことはなさないことです。」となります。

内田泉之助先生は、この結びの句の意味を、「ぐずぐずして花が散つてから枝だけを折るようなへまをなさるな」と訳して、陶淵明の雑詩の結びの四句を引いています。

それが、「盛年不重来 一日難再晨 及時當勉勵 歲月不待人 (盛年重ねて来らず、一日再び晨なり難し。時に及んで當に勉勵すべし。歲月は人を待たず)」で、時を逃さずに学に励むべしと訴えた詩であろう、と述べています。

「金縷の衣」の作者杜秋娘は、娼家に生まれ、人の妻となり、後に王子の傳母となるといふ数奇の一生を送つた女流作家です。流れる行く時を大切にすべきという思いがあることは確かであろうと考えられます。

しかし、吾輩は、この詩から与謝野晶子の「やは肌のあつき血潮にふれもせで悲しからずや道を説く君」という歌を想起するのです。扁額の栄一の書の全体から、どこことなく艶っぽいものを感じるのです。時を惜しんで学に励めというだけではないようです。しかも、附属高等学校の図書室に掲げられていることも、二松學舎のまた幅の広さを感じるのです。皆さんは、いかがですか。

家永 修 (44文)

## 学生会員だより

## 九段祭「POP2022」を終えて

学生会執行委員会

会長 水口愛子

学生会執行委員会の会長を務めさせていただいております、水口愛子と申します。

今年6月19日に対面での九段祭POP2022を開催いたしました。昨年度は新入生歓迎式典や創縁祭など、オンラインでの開催が主軸となりましたが、今年度は新型コロナウイルスの対策を行うため、役員一同話し合いを重ねており



POP2022 実行委員会メンバー

ました。

今年の九段祭POPのテーマは「春雷〜青春を告げる衝撃〜」を掲げておりました。「春を告げる雷と言われる春雷。それは青春を告げる衝撃。コロナ禍によりなかなか一歩目を踏み出せない膠着した状態。それを打ち壊す春を作ろう」というコンセプトで、通常の授業も対面となり活気が戻り、また今までオンライン授業だったために、ほとんど大学に足を運んでいなかった学生が大学に集まり、楽しんでもらえるイベントを目指しました。また、このイベントは新入生がサークル・同好会に所属し、初めて参加するイベントでした。私たち学生会執行委員会も新たに1年生を迎え入れ、新体制での行事の運営となりました。

新型コロナウイルスの感染者が比較的落ち着いていた時期でもあり、感染対策を引き続き徹底して行いました。対面での開催が可能となった今年の九段祭POPは近年のデジタル化に伴い、新しくイ



会場確認をする執行委員

ベントごとに作成しているパンフレットをデジタル化し、紙媒体との併用を行いました。新たな取り組み以外にも、毎年恒例のビンゴ大会を1年生主体で準備を行いました。

私も実際にビンゴ会場を視察しましたが、昨年度よりも多くの学生が集まっており、司会の1年生と共に一喜一憂しながら呼ばれてほしい番号に期待している様子を見て、無事に対面開催することができ、本当に良かったと思えました。

2年ほどオンラインで開催を行っていたため、上級生も不慣れな部分がありました。が、反省会を十分に行い、今後の運営に生かしていきたいと思っております。今年参加してくださったサークル・団体の皆様にも、新型コロナウイルス

イルスの感染状況により、開催方式変更の可能性がある中で準備を進めてくださり、感謝申し上げます。

この九段祭POPで学生会執行委員会の下級生の成長も見ることができたと思います。今まで色々と考えられていた後輩たちが、1つの物事を多方面から見るとの視点を持ち、自ら考え自ら一生懸命に動いてくれたからこそ、この九段祭POPが成功したのだと思います。11月には「創縁祭2022」が開催されます。再び新型コロナウイルスの感染状況によってイベントの開催方法が変化してしまうかもしれません。不測の事態にも備え、参加して下さる多くの方に安心していただけるよう、協議を重ね準備を進めております。今後のイベントが成功しますよう、応援していただけると幸いです。



九段祭 POP2022 ポスター

### サークル紹介 狂言研究会

文学部国文学科4年

志賀櫻子

狂言研究会は、能楽師狂言方大藏流の大藏吉次郎先生、大藏教義先生のご指導のもと、日本の伝統芸能である狂言を実際に演じ、学んでおります。現在は週に1回御稽古に励み、その成果を九段祭POPや創縁祭といった学園祭のほか、能楽堂で開催する自演会において発表しております。

令和2年度には新型コロナウイルス感染症拡大の影響により活動を自粛していましたが、昨年度はオンライン活動を経て渋谷セルリアンタワー能楽堂において自演会開催、今年度の春学期からは対面での御稽古を再開いたしました



た。秋学期からは通常活動を週2回とすることをお話し、先

生方や卒業生の方々のご支援を賜りながら、徐々にコロナ禍以前と同様の活動形態を取り戻しつつあります。

室町時代から続く狂言の中にみられる言葉、ユーモア、文化や価値観には、現代と異なる事柄もありますが、共感できるものも多くあり、狂言を通してこれらを体感することがひとつの醍醐味であると感じています。また、装束を身に付け、能舞台の上で狂言を演じることのできる自演会は、貴重な経験です。

狂言研究会では、左記SNS等で公演情報の発信や新入部員の募集を行っております。ぜひご覧ください。

TwitterID : @nisho\_kyogen



### 競技かるたサークル舞札

文学部国文学科3年

田村美流

こんにちは、私たちは「競技かるたサークル舞札」です。

「競技かるた」という漫画で知っている人も多いかと思いますが、百人一首100枚のうち50枚を自陣、敵陣の2つに分け、札を取り合う競技です。私たち舞札は、毎週火曜、水曜、金曜日の5、6限に活動し、試合形式での練習を行っています。活動日は週に3回ありますが、無理せず参加できるように参加する、という形式です。百人一首は歌が100首あるということ、難しいというイメージがある人もいるかもしれませんが、札の位置を覚え音に耳をすませ、誰より早く札が取れたときには、あなたもきっと競技かるたの魅力にハマると思います。百人一首？なにそれ聞いたことない、分からないという人も、大丈夫です。舞札には大学から始めた初心者の人も多いので、ルールや札の覚



え方も丁寧に説明します。一緒に覚えていきましょう！

見学も大歓迎ですので、興味がある人は舞札のTwitterまたはメールアドレスまでご連絡ください。また、11月2日、3日の創縁祭には舞札も参加しますので、興味がある人はぜひ遊びに来てください。お待ちしております。

メールアドレス: nisho.mai@nifuoda@gmail.com



# 令和4年度「第27回松苓会定期総会」開催報告

コロナ禍のため3年ぶりの開催となった令和4年度の定期総会が、改正後の松苓会則に従い令和4年6月11日（土）14時から二松學舎大学九段3号館3021教室で開催した。（令和2年度、令和3年度は議決権行使書による書面会議）

当日は、新型コロナウイルス感染症防止対策から総会構成員のみの会議として来賓（法人の理事長、大学学長、松苓会顧問）の招待はなかった。

総会は、高柳常任幹事により、開会が宣言された。続いて前回総会后に物故された松苓会会員及び大学関係者への黙祷があった。

司会から構成員77名中出席者32名、議決権行使書提出者30



## 総会議案

- 1 令和3年度事業報告
- 2 令和3年度収支決算報告並びに監査報告
- 3 令和4年度事業方針並びに事業計画
- 4 令和4年度予算案
- 5 小林監事病氣辞任に伴う後任監事選出について
- 6 役員候補者選考委員会設置に伴う委員の選出方法について

## 諸報告

- 1 支部運営等のお願い
- 2 松苓会役員・支部長一覧

名、委任状提出者9名の合計71名の参加者報告があり、総会の成立が確認された。

廣田会長の挨拶に続き、家永副会長を議長に選出、書記に大山由美子、西園隆士両常任幹事を指名、議事録署名人には金井康常任幹事、矢澤喜成東京都支部長（常任幹事）が指名された。

## 議案審議

次第に従い議案の審議が行われ、第1号議案から第6号議案まで原案どおり承認された。

第5号議案の後任監事には、木村誠次前監事が承認された。第6号議案は、今期役員

任期が令和4年度末に満了することに伴う後任役員候補者（会長及び監事候補者）を選考する委員会の委員選出方法を諮ったもの。選出方法は次のとおり。

## ○総会選出委員（3名）

従来どおり会員数の多い関東地区支部長の互選又は投票により選出する。

## ○幹事会選出委員（3名）

地区幹事（但し、関東地区幹事は除く）から2名、地区幹事以外の幹事から1名選出する。幹事のみで投票で選出する。

## ○常任幹事会選出委員（3名）

常任幹事のみで投票で選出する。但し、支部長である常任幹事は候補者から外れる。

以上の選考方法が承認され、各母体からの委員選出は郵送による投票で行うこととした。

## 松苓会幹事会

総会に先立ち、幹事会が午後1時から九段3号館

3071教室で開催された。構成員42名のうち出席22名、委任状18名合計40名の参加

幹事会では、従来総会に提案する議案について説明していたが、議案の説明等は総会で行うこととして承し、今期役員

の初めての顔合わせとなったことから、会長挨拶に続き、出席者の自己紹介、松苓会活動に対する問題提起等意見交換の場とした。

## 松苓会人事異動

午後1時45分に幹事会は閉会し、2時から始まる総会会場に移動した。

監事 解囑 小林憲二(38文)  
令和4年3月12日付

監事 委囑 木村誠次(39文)  
令和4年6月11日付

幹事 委囑 片山聖英(50文)  
令和4年7月9日付

支部長交代  
静岡県 (令和4年5月12日付)

新 江本浩二(51文)  
前 永井陵次(38文)

高知県 (令和4年6月7日付)  
新 足達 昇(55文)  
前 戸田 浩(47文)

令和4年度 松苓会予算

令和4年4月1日～令和5年3月31日

Table with financial data for the 2022 budget. Includes sections for income (前年度繰越金, 新卒者終身会費), expenses (事業費, 卒業者カミングアウト交流会), and special accounts (特別会計).

令和4年度 松苓会特別会計予算

Table with financial data for special accounts in 2022, including 1. 周年事業積立金, 2. 松苓会奨学基金, and 3. 松苓会費積立金.

会計監査報告書

令和3年度（令和3年4月1日～令和4年3月31日）の会計執行状況について監査の結果、諸帳簿の整備、ならびに、金銭の管理状況は適正であり、収支に誤りのないことを認めたのでここに報告致します。

令和4年4月21日 二松學舎松苓会監事 田邊 義博

令和3年度 松苓会収支決算書

令和3年4月1日～令和4年3月31日

Table with financial data for the 2021 actual results. Includes sections for income (前年度繰越金, 新卒者終身会費), expenses (事業費, 卒業者カミングアウト交流会), and special accounts (特別会計).

令和3年度 松苓会特別会計決算書

Table with financial data for special accounts in 2021, including 1. 周年事業積立金, 2. 松苓会奨学基金, and 3. 松苓会費積立金.

令和3年度会計収支決算は以上のとおりです。

令和4年4月19日

二松學舎松苓会会長 廣田 克己
二松學舎松苓会事務局長 佐藤 修
二松學舎松苓会事務局 島 りつこ

ニュース

附属高校野球部 「3季連続の甲子園出場」



開会式に臨む  
小林幸男キャプテン

附属高校野球部は、この夏の第104回全国高等学校野球選手権大会東京大会で優勝し、昨年の夏、今年の春選抜に続き、3季連続で甲子園出場を果たした。夏の選手権大会は2年連続で5度目の出場となった。

1回戦は、南北海道代表の札幌大谷高校に3対2のサヨナラ勝ち。2回戦は地元兵庫県代表の社高校に7対5で勝利。3回戦は、昨年の明治神宮野球大会、今年春の選抜で優勝の大阪代表の大阪桐蔭と対戦して0対4と善戦した。どの試合も見事な試合運びであった。

野球部を支援するため、松茶会より附属高等学校に支援金50万円が贈呈された。

平成13年度以前の卒業生の方へ  
終身会員手続きのお願い

松茶会の運営資金は、ほとんどが終身会員の会費で賄われています。終身会費1万円を納入していただくと終身会員になり、会報の毎回送付やホームカミングデーの案内が毎年届くようになります。終身会員の手続きをとられるようお願いいたします。

寄付金のお願い

松茶会では、会の発展のために会員の皆様に寄付金のお願いをしています。松茶会の事業推進と財源確保のために、1口千円で寄付金を募っています。ご協力をよろしくお願いいたします。

訃報

石川忠久氏 顧問・名誉教授

令和4年7月12日逝去  
享年91

石川先生は平成7年4月～同11年8月まで二松學舎大学大学院文学研究科長、平成11年9月～同13年3月まで学務法人二松學舎理事長、平成13年4月～同17年3月まで二松學舎大学学長を務められました。

二松學舎創立130年記念事業では『三島中洲詩全釈』全五巻を監修。

また「平成」に代わる新元号の考案を政府から委嘱された学者の一人。提案した「万和（ばんな）」は「令和」などとともに最終候補の6案に残りました。

他に斯文会理事長、全国漢文教育学会理事長等を歴任されました。平成15年に全国漢詩連盟を設立され、日本における漢詩の普及に尽力、NHKのテレビやラジオ番組に長年にわたり出演し、わかりやすい解説で親しまれました。

平野芳彦氏 (14専)

令和4年4月22日逝去  
享年99

新井喜義氏 (37文)

令和4年4月23日逝去  
享年79

松田 存氏 (26文) 名誉教授

令和4年6月20日逝去  
享年87

松本寧至氏 名誉教授

令和4年6月30日逝去  
享年91

松岡一夫氏 客員教授

令和4年7月19日逝去  
享年87

富岳智猛氏 客員教授

令和4年9月3日逝去  
享年96

ここに謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りいたします。

表紙

創立145周年を記念して、九段1号館の柱は装飾が施されています。法人の広報課より写真とイラストを提供いただきました。

松茶会報の題字

題字を家永修副会長に揮毫いただきました。

二松學舎  
松茶会報  
No.68

創刊 昭和62年12月1日  
発行 令和4年10月10日  
集所 二松學舎松茶会  
編住 〒102-8336  
東京千代田区三番町6-16  
電話 03-3261-7408 FAX 03-3261-8914  
印刷 00180-5-160343 (郵便局払込取扱票)  
印 刷 (株)サンセイ



編集後記

創立145周年記念の68号をお届けします。今号から「松茶会支部長だより」が始まりました。各地でご尽力下さっている支部長の想い、学生時代の思い出などを綴っていたべく企画です。次号は中国・四国編。支部長の皆さま、よろしくお祈りいたします。

本報は二松同窓生の交流の場です。皆さまからのご寄稿、ご感想も常時お待ちしております。パソコン、タブレット等でも閲覧可能。アクセスしてみてください。

【大学HP TOP → 卒業生の方 → 二松松茶会HP → 二松學舎松茶会報】

二松學舎大学(松茶会)  
ホームページ  
松茶会 E-mail

www.nishogakusha-u.ac.jp  
shourei@nishogakusha-u.ac.jp